

I 法人の運営

会員数 令和 7 年 3 月 31 日現在

【正会員個人】59 人／【特別会員】35 団体／【賛助会員】2 人 合計 96 (35 団体、61 名)

- ◆妊娠期から子育て期の親たち、子どもたちの、身近な寄り添い型支援による、安全・安心な親子の居場所が、子育て家庭の身の回り、そこそこにあることが、何より心のよりどころになります。
長年にわたって培われてきたすくすくかめっ子・地域ネットワークを基盤に、神奈川区地域子育て支援拠点・親と子のつどいのひろばでは、つながりを生み出す様々な事業を展開しました。
各すくすくかめっ子親子のたまり場は、地域の支え手チームの親身な想いと力により、地域の親子に向けて場を開き、継続してきました。
法人は、ネットワークでつながる各子がめ隊と連携を図り、情報を集め、ホームページでの周知、訪問、相談、必要に応じた情報提供等を行いました。
- ◆横浜市親と子のつどいの広場「しゅーくるーむ」において、賃貸契約物件が令和 7 年度 9 月にて契約が切れるため、地域にご支援いただきながら、運営チームを主軸に、該当エリア内での新たな場の確保に向けて動きました(継続)。
- ◆身近な地域の「場」の意義を更に確認しつつ、一方でコロナ禍に整備されたオンライン事業やオンラインによる関係各所との打ち合わせが定着しました。リアルではなくても顔が見えるツールを共有することで、コミュニケーションが深まり、すき間時間での打ち合わせを丁寧に重ねることが事業に反映されました。
対面事業がコロナ禍以前のように展開される中、保育園・幼稚園の基本情報提供等、多くの子育て世代に関心の高いテーマ型事業については、引き続きオンラインを活用しました。
オンライン事業を通じて、拠点等へ来所しない層との出会いにつながりました。在宅で気軽に、子育てに関する学びや地域情報が得られ、人と語り合えるオンライン事業の効果を実感しています。
合わせてオンラインツールを用いて、法人内でのコミュニケーション、情報共有、各種事業の進捗共有等を図りました。
- ◆神奈川区主催による「第 10 期地域づくり大学校」の運営を、受託しました。
“つながり生み出す新しい地域づくり・ギューグッとつながる！ 人・コト・縁”をテーマに、神奈川区区政推進課と協働し、神奈川区内で培ったネットワークを活かし、受講者を区内の自治会町内会や多様な地域活動につなぎました。
合わせて、地域づくり大学校 10 周年を機に、「記念紙」を共催発行し、事業の歩みと効果を広く発信しました。
- ◆令和 5 年度、国にこども家庭庁が創設され“こどもまんなか社会”を掲げ、子育て・子育て支援施策も大きく舵が切られた中、令和 6 年度は「こどもまんなか実行計画」が示されました。
法人も、より広いネットワークに参画し、マクロの視座を学びながら、政策等の変化・変革にアンテナを立て、市民として、地域づくりに関わる立ち位置を大切に、それぞれの現場から声を聴き、活かし、今後も柔軟な運営に臨んでいきます。
- ◆法人設立、地域子育て支援拠点開設当初より、運営に携わってきた第一世代チームから、次世代チームにバトンを渡す準備を、数年かけて進めてきました。業務はもとより、運営の柱や拠点という場で培われ、育まれてきた「場の文化」や地域とのネットワーク等を丁寧に伝え、対話をくり返し、人材の循環に向けて運営を整えました。
令和 6 年度はその実行初年度となりました。
法人として、年間を通して理事会や報告等で運営の進捗を確認する一方で、次世代チームが時代のニーズを感知しながら新たな感性を発揮し運営に臨む自立性を大切にいたしました。
- ◆横浜市男女共同参画推進審議会委員として、理事長が参画しました。第 5 次横浜市男女共同参画推進行動計画の市民や市民活動への啓発に向けて、多様なネットワーク法人・団体等と連携しました。
- ◆すぺーすろっかく閉業に伴い、DMMバーチャルオフィス(法人登記《神奈川区金港町》・住所利用郵便物受け取り連絡等のプラン)に年間契約いたしました。

1) 親子の居場所事業 ①

●新規登録者数: 1027 人 / 年間利用者数: 44537 人(含支援者: 2864 人)

●アウトリーチ総数: 5513 人(ひろばの利用者数には含まれない人数)

<東神奈川>

◆大型事業(ホールコンサート、講演会、かなーちえまつり)、屋外での中型事業

(図書イベント、みちすきま遊び)など、様々な事業が数年をかけて復活しました。

新たな利用者親子、関係施設や団体と対話を重ねながら、多様な人達が参画する機会や過程を大切に、共に場を創りあげました。

◆乳幼児の育ちの場として各年齢に応じた遊具、環境を整備し事業を組み立てました。

2歳以上の子どもの関わり合いを生み出す、ごっこ遊びに繋がる遊具・素材を用意したり、発散あそびを日常的に取り入れました。

ハンモックに加えて、のぼり綱を設置し、「お互い様の子育ち・子育て」を掲げ、見守り合う空気を大切にしました。

◆語り合いや話し合い、参加型ワーク等、親同士が学び合う機会を設けました。

親としての自分だけでなく、「私」として様々な語り合いや繋がり、交流が生まれる「対話の場づくり」として、常設のひろばが機能しました。

◆土曜日は、きょうだいの利用が多く、異年齢の子どもたちの自由なやりとりが広がっています。

また小学生親子ボランティアや、中学生となつてのボランティア実習など、子どもがサポート側として場を見守る循環が見られるようになりました。

ひろばでその旨を伝え「繋がっていくこと」の実感を共有しました。

◆おむつ替えスペースに台を増設し、適度な目隠し(カーテンなど)による子どもの権利を守る環境づくりを行いました。

◆リサイクルコーナーの常設が定着し、異年齢親子の交流や、再来所のきっかけにもなっています。

◆父親の利用が日常化し土曜日は多い中、先輩父親グループによる対話タイムや事業が定着しました。

夫婦間コミュニケーションや家事、遊び、子どものケアなど様々なテーマで、新たな層が来所するきっかけになっています。

◆妊娠期から拠点や地域の場と繋がることで、親も子も地域の人の中で育まれ、支え合うという実感を得られるよう、

丁寧働きかけました。マタニティプログラムでは夫婦での参加多いため、先輩親子との交流をより重視しました。

◆就労型社会へ移行し、早期に職場復帰する人が年々増えています。

親子が地域の中や人との間で育てられ、支えられた直接体験の機会を積み重ねられるよう、事業を更新し、ひろばで日常的に声かけや働きかけをしました。

子どもの発達の見通しを学びつつ、成長過程を共に見守り合う大人同士の意識を育むこと、乳幼児期の

親としての他者との関わりや体験が学齢期の地域づくりに繋がること、などを伝えるひろばづくりを行いました。

1) 親子の居場所事業 ②

<入江・新子安サテライト>

- ◆2歳以上の利用がほぼ半数を占めるため、幼児のダイナミックな遊びの工夫として、ハンモックやロープを設置しました。身体全体での遊び、挑戦していく姿を、周囲の大人がみんなで見守り、子どもの遊びを保障できる環境の大切さや良さを繰り返し伝えました。
- ◆幼児親子が気軽に利用できるように「親子プレイデイ」を毎月第1土曜日に開催しました。プラレールやカプラなどのテーマ設定が関心と呼び、多くの親子、特に父子での来所につながりました。
- ◆屋内空間がより活かされるように、スタッフ間で繰り返し検討しました。
2階にままごとコーナー、赤ちゃんコーナー、ロープ遊具とブロックなどの幼児遊具のゾーンを設置。また、階段や廊下などに小さな本のコーナーを整え、親子が自由に静と動の動きを選択できるような環境づくりをすすめました。
- ◆屋外の空間については、ルーフの設置、植栽の充実、砂や遊具の補充などの工夫をしました。
庭の様子が目に入りやすいように扉を開放し、スタッフもすすめることで利用が増え、1年を通し様々な遊びが展開されました。遊ぶ子の姿に刺激されて、初めて砂に触れる乳児も多数みられ、異年齢の子を持つ親の間でも砂場を囲んで会話が生まれました。
- ◆昼食タイム以外にも安心して飲食できるスペースを作りました。
それぞれの親子のリズム、必要に応じた柔軟な利用につながり、ゆっくりと滞在する親子が増えました。
- ◆開所から3年がたち、利用者の力と知恵によってつくる場であることが少しずつ周知され、利用者の声で日常的に小さな音楽タイムが行われました。
また、自主の乳児親子向け遊び企画が2回行われました。
- ◆文化的背景を配慮しつつ、同じ外国籍の利用者同士の出会いを見守り寄り添いました。
「数年振りに母国語を話し嬉しかった」という声も聞かれ、以降も関わりを持ちながらのひろば利用となっています。
国籍にとらわれず、他の親子とも交流する姿が日常となりました。
- ◆働く家庭が増え仕事復帰が早まる中、「子どもの遊びや育ちについて」をひろばで伝えることに加え、講師を招いて講座を開催しました。
子どもの探索活動、他児との関わり等のお話は、感想からも参加者の心に響いた様子が伺えました。
- ◆サテライト講座終了後に発行した「サテライト通信特集号」は、聴講しなかった利用者にも内容を伝えるきっかけとなり、親同士の会話の広がり、関わる姿も多く見られました。

2) 子育て相談事業

●ひろばや出前等の年間相談件数：7269 人／14149 件

●専門相談：【栄養士】30 回／【臨床心理士】26 回／【言語聴覚士】29 回／【助産師】12 回

<東神奈川>

- ◆敷居の低い日常の場において、何気なく交わされる話の中から、相談を掘り上げました。
- ◆同じ年代や共通の悩みを持つ親同士のプログラムを通して、想いを共感し、相談し合う関係が育まれました。
更にスタッフが入ることで、揺れ動く親の心情に継続的に寄り添い、必要な相談機関へ橋渡しをしました。
- ◆療育に関する先輩母がスタッフとしてひろばに入ること、多くの相談を掘り上げました。
日常的に相談に応じたり、見守りを継続することができました。
- ◆父親向けのプログラムは、内容が伝わるよう名称を変更し、対象の月齢を広げました。講師から赤ちゃんのあやし方、関りについてともに学び聞くことで、共通の悩みをもつ父親同士のピア相談へと発展しました。
- ◆定期的な出前プログラムや共催事業を通して、多様な相談を掘り上げました。
特に屋外での出前プログラムは、拠点に足を運ばない親子との何気ない会話から深い相談に繋がりました。
さらに保育士と連携することで、多様な相談に対応しました。
- ◆ひろばの中で専門相談を利用しやすいよう、名称と時間を変更したことで幅広い層が相談に繋がりました。
- ◆拠点が遠く来られない親子が、気軽に専門家の相談が受けられるよう、出張ひろばで年間8回
専門相談を実施しました。

<入江・新子安サテライト>

- ◆ひろば内外の環境を工夫したことで、庭や 2 階など、どの空間でも自然な会話から相談につながりました。
- ◆青空サテライトや自然遊びなどの施設外事業時には、サテライトに来づらい親子とつながり、
遊びを通しての会話から、子育ての困りごとなどを聞く機会を多く持てました。
- ◆専門相談では、気負わず子育てを話せる時間であることを丁寧に伝えたことで、一度講師と話したことのある
利用者が、翌月以降にその後の様子を報告しながら再度相談する姿が見受けられました。
- ◆マタニティプログラムでは、助産師が担当する沐浴体験・ヨガ・トークなど、
区の窓口で案内された方の参加が多数ありました。
出産前の疑問や不安に対し、助産師の言葉、他の参加者の同様の思い、ひろば利用者の経験などが語られ、
交流から様々なヒントや安心を得たという声につながりました。
- ◆「療育おやこトーク」ではメンターの参加もあり、体験談や情報交換などが行われ、共感し合う姿がみられました。

3) 子育て・地域情報の収集と提供事業

- 【子育て・地域情報の収集】行政（区福祉保健センター等）、施設（親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、保育所他、健康・国際・就職・各種相談機関）、地域（かめっ子、地域グループ）、当事者の活動、民間企業による地域貢献事業
- 【情報の提供】通信（163 か所）、ホームページ、Instagram

<東神奈川>

- ◆2024 年 4 月 1 日より「横浜市地域子育て支援拠点システム」を利用開始。横浜市、他拠点、拠点内で情報共有をし、滞りないシステム運用を心掛けました。
7 月より「子育て応援サイトパマトコ」と連携し、システムを順調に移行できるように努めました。
- ◆「初めて来所する人が情報を得やすいように」をベースに、拠点利用やプログラム内容がわかりやすいレスポンス対応のホームページへリニューアルしました。
- ◆SNS (Instagram) で、積極的にプログラムの事前告知を投稿し、フォロアーが 1300 人に増えました。
- ◆横浜市の DX 化を受け、拠点間の通信発行を 18 区共有ドライブ活用し、印刷部数を減らしました。
- ◆2024 年度利用者アンケートの「情報の受け取りは紙媒体も有効である」という結果を受け、子育て世代に伝わるチラシ作成を心掛けました。
- ◆日々子育てに関する民間情報が寄せられます。
掲示だけでなく、ひろばの中で主催者が周知、PR をする工夫をしました。
- ◆「親と子のつどいの広場」と共に、公的、民間、地域の情報を地域別子育て情報カレンダーとして作成しました。
紙媒体、デジタル媒体で、区内の施設や利用者に配布、案内しました。
- ◆横浜市の子育て家庭応援事業「ハマハグ」協力店舗の開拓を地域グループと共に行いました。
ネットワークも更に広げ、新たに 18 件の協賛店舗を増やしました。
また利用者にハマハグ情報を掲示案内し、周知に努めました。

<入江・新子安サテライト>

- ◆9 月の有識者訪問の際「1 階ひろばの掲示が多い」とアドバイスを受け、掲示の仕方を検討しました。
位置を決め、時期を考えながら内容を変えていく掲示方法に改善し、直近の伝えたい情報が際立つようにしました。
- ◆通行人にも、ひろばの様子やプログラムなどが伝わるよう、
入ロスロープの案内板での広報の仕方を工夫しました。
- ◆SNS(Instagram)での情報提供は、プログラムの周知と共に、その日その時のひろばの様子を伝えました。
乳児、幼児親子それぞれが安心して来所できるよう、様々な視点から発信するよう努めました。
- ◆サテライトを知らないマタニティ期家族に向け、ヨガのプログラムなどをチラシにし、区に配架協力をお願いしました。

4) 子育て支援者のネットワーク事業 ①

●【地域で活動している個人・団体によるちえのわタイム】78 回、【公園・プレイパーク出前】81 回、【共催事業】29 回

<東神奈川>

- ◆地域ケアプラザ単位でのネットワーク会議や、保育所子育て支援連絡会等、支援者のネットワーク会議が定期的に開催され、それをもとにネットワーク主体で、共催・協力事業がかなーちえ内外にて、実施されました。
さまざまな関係者・支援者と事業をともに行うことで、事業の周知が掛け算的に進み「まちぐるみでの子育て」風土が育まれるとともに、関係者同士の理解も深まりました。
- ◆ひろばでの市民病院のがん啓発事業や区政推進課主催のGREEN×EXPO関連事業、移動図書館はまかぜ号協力による本に親しむ事業等、さまざまな団体と、子育て世代に向けたプログラムを開催しました。
- ◆プロジェクトマネジメント・ソーシャルキャピタル(つながりの社会資源)・外遊び活動をテーマに、ネットワーク交流会を開催しました。
変化の時代に求められる事業や活動について、地域の担い手と共に学び、対話する機会にしました。
- ◆地域子育て支援拠点に関する研究に協力したり、子育て支援をテーマにした大学生企画のフォーラムに参画することで、利用者の利用状況等ニーズや研究成果がひろば利用者やスタッフに還元されました。
- ◆地域づくり大学校事業を法人が受託していることで、地域活動に関わる新たな顔ぶれと繋がることができました。
地域で新たな場が生まれ、またひろばではプログラムに繋がる等の効果がありました。
- ◆療育おやこネットワークでは、啓発ワークを柱に、先を見据えた就労をテーマに勉強会を意欲的に開催しました。
自立支援協議会との連携を模索する等、その活動を広め深めています。
- ◆すくすくかめっ子がR7年度に 25 周年を迎えるにあたり、事業内容だけでなく、その意義やこれからの方向性について、区とともに検討や対話を重ねました。
- ◆他区拠点法人の研修に参加し、こどもまんなか社会における子ども家庭庁の施策や社会の変化等、大局的な知見を学び合う機会を得ました。
市域でのネットワーク団体と連携することで、大きく舵をきる子育て支援施策について、旬な学びを得られています。

<入江・新子安サテライト>

- ◆地域で健康に関する活動を行っている様々な講師に、9 月より毎月プログラムを依頼しました。
目指して来所する人も多く、ひろばのシニアボランティアの参加も見られました。
多世代が共に活動する機会になっています。
- ◆近隣読み聞かせグループの協力を得て、外国籍につながる人のプログラム「絵本で多文化交流」を初開催しました。
- ◆地域、区内、利用者などのネットワークでつくる「第 3 回プレイキャラバンで遊ぼう」を開催しました。
たくさんのお親子が近隣公園で自由に遊ぶ場になりました。
今年度は近隣小学校の広報協力の効果があり、小学生の参加も多くありました。
- ◆六角橋地域で毎年恒例のキャンドルナイトに今年度も参加しました。
初の試みとして閉館後の入口スロープを飾り付け、Instagram でアナウンスをしました。
通りがかりに立ち止まって見る地域の人、保育園お迎え後に見に来た親子も多く、久しぶりに顔を合わせるきっかけになりました。
- ◆松見消防出張所の協力で、「乳幼児救急法」、「乳幼児家庭の防災・減災」についてのプログラムを開催しました。
各回実演なども行い、開催後はコーナーを作り、資料を手にとれるようにしました。
- ◆区からの紹介で神の木公園管理者と繋がり、青空サテライト会場として公園を使用し、自然遊びプログラムを共催しました。素材の提供協力も得て、ひろばでの遊び素材として活用しました。
また、管理者が主催する地域情報交換会議に参加し、地域との関係づくりに努めました。

4) 子育て支援者のネットワーク事業 ②

<入江・新子安サテライト>

- ◆拠点から少し距離のある地域(大口、西寺尾、松見)で、「かなまちカフェトーク」を初開催しました。
就労支援B型事業「Café Turtle」に場の提供協力をお願いし、地域の親子同士が繋がり、
情報が広く共有されました。
- ◆新子安地区社協による「こどもみらい会議」に参加しました。自治会、保育園、学校、学童クラブ、地域施設など、
地域の施設と顔を合わせ、課題と今後の取組について共有しました。
- ◆横浜市民病院予防医療センターと協力し、乳がん・子宮頸がんの啓発プログラムを実施しました。
子育て世代に向けがん検診への意識向上と受診のきっかけづくりを行いました。
- ◆地域小学校の総合学習の授業と外遊びボランティアの活動を結び、子どもたちが遊びを通して
地域の人や公園に親しむ機会をつくりました。

5) 子育て支援に関わる人たちの人材育成・活動支援事業

●【ネットワーク学習会】3回

●【学生・職員の実習】延76人／【学生ボランティア】延230人／【地域ボランティア・親子ボランティア】延713人

<東神奈川>

- ◆区と共催のすくすくかめっ子事業では、全体交流会、方面別交流会、研修会を行いました。
方面別交流会では、近隣の子育て関連施設にも声をかけ、地域の支援者同士が顔を合わせ、
子育て支援を語る場を作りました。
- ◆19か所のかめっ子にかめっ子相談員、親がめ、拠点スタッフが訪問しました。
そこで出た課題や困りごとは区と共有し、活動に丁寧に取り組みました。
- ◆今年度も多くのボランティアがひろばで活動しました。
小学生からシニア層まで、幅広い人材がひろばに集い、多世代交流の場として、ひろばが機能しました。
利用者がボランティアとして広場にくる、人材の循環が生まれています。
- ◆当事者ボランティアが企画をした、「幼稚園選び」「みちすきま遊び」は、多くの参加がありました。
企画から当事者が主体的に関り、打ち合わせなどを行う姿がひろばで見られ、次のメンバーが
ひろばから出てきています。
- ◆学生ボランティアは、中学生から大学生まで延べ230人の活動がありました。
夏休みの学生ボランティア募集には、これまでかなーちえと縁がなかった学生の応募が多く、これをきっかけに
かなーちえまつりのボランティアや、横浜市大院生の研究に協力など、新たなつながりが生まれました。
- ◆社会福祉、母子保健など、様々な分野で学生の実習や研修を受け入れました。
- ◆中学、高校で「親子ふれあい体験授業」を地域と共に行いました。(中学3校/高校1校・3拠点合同)
利用者親子と学生が交流をし、学生が家庭や将来について考える機会になりました。
また、地域の関りや、父親の育児について、次世代に伝えることができました。

<入江・新子安サテライト>

- ◆夏休みに学生ボランティアを連続して受け入れました。共に過ごすことで親子と顔が繋がり、子どもから求められる
関わりにつながりました。また、学生自身の好きな遊びを展開して親子の刺激となる時間も見られました。
ひろば利用者にとっては関わりが少ない中高生とのふれあいの時間となりました。
- ◆利用親子の「やりたい」の声から、親子プレイデイの中で「将棋タイム」を行い、将棋が得意な高校生ボランティアが
参加しました。高校生ボランティア対子ども、対大人の様々な対局が場を作り、参加者同士の交流に加え、
対局を見守った利用者にも楽しい時間となりました。

6) 子育てサポートシステム神奈川区支部事務局運営事業

- 令和7年3月31日付会員数：【利用会員】896人／【両方会員】42人／【提供会員】141人
- 事業：【入会説明会参加者】462人／【援助実績】4357件／【研修会】3回
- ◆産前産後の園送迎依頼が多く、提供会員が検討しやすいよう丁寧な聞き取りを行い、活動に繋げることができました。
- ◆集団の入会説明会をかなーちえやかなーちえサテライトの、ひろば開館時間内や閉館後の夕方等、様々な場面で行いました。
また、調整の難しい家庭等には、個別での入会説明会を随時行いました。
- ◆配慮の必要な家庭へのサポートを、区と連携することができました。
- ◆拠点サイトやパマトコの導入に伴い、入会申請や依頼申請方法等、入会説明会や事前打ち合わせで丁寧に説明を行ないました。
更に、提供・両方会員へは活動報告書の入力方法、給付金請求等について丁寧に説明をし、システム利用の負担軽減に努めました。
- ◆拠点サイトやパマトコの導入、対象児におためし券発行等、子サポ利用のきっかけは増えたが、活動できる提供会員は増えていない状況が続いています。
募集を積極的に行うことが必須となり、今後も、関係機関と連携を取り、効果的な周知活動を探っていきます。
- ◆難しい援助依頼や、配慮の必要な会員への対応は増える一方であるため、スーパーバイズを受け、コーディネーター自身のケアを行いました。

7) 利用者支援事業 ①

- 年間相談件数：東神奈川 214件 / サテライト 234件

<東神奈川>

- ◆保育についてはマタニティ期から関心が高いため、区保育教育コンシェルジュと連携しながら、広く情報を集め更新し、提供しました。
- ◆面会交流希望の相談が多数ありました。
居住地とは別の場所を希望することも多く、他区パートナーとも連絡を取りながら、拠点全体で共有し対応を考えました。
- ◆学齢以上の相談が多く寄せられます。
検索でたどり着き、匿名のままということが多く、学齢になって相談先やつながりがとぎれてしまう現状がうかがわれます。
乳幼児期から学齢へ、とぎれのない支援とつながりづくり、多様な人が関われる地域資源が求められています。
- ◆市域の横浜子育てパートナー連絡会の幹事区を務めました。より他区パートナーと連携を深める機会となり、区をまたいだ相談対応に活かされました。
- ◆土日開催のプレイパークに出張しました。
拠点では出会いづらいうちわ家庭や学齢家庭など多様な家庭との接点になっています。
多世代が集える場は貴重な地域資源であり、こういった場と関係を作り盛り立てていくことが、今ますます重要になっています。
- ◆保育所子育て支援連絡会に出席し、5年ぶりに再開した保育施設の先生たちによる子育て支援事業「みんな de 子育てワイワイパーク」に拠点のネットワークを活用して協力連携しました。
拠点や区内の施設、すくすくかめっ子と地区の保育園との関係づくりのきっかけとなりました。

7) 利用者支援事業 ②

<東神奈川>

- ◆子育て世代包括支援センター連絡会では、区と拠点それぞれの現状の共有にとどまらず、より具体的にこれからの取り組みについて話ができました。
妊娠期や低月齢から拠点や地域のことを知りつながっていけるよう意識して、両親教室での拠点紹介やHPなどで、より拠点の雰囲気を感じられる工夫をしました。
- ◆ダブルケアカフェやシングル親トークでは、関係機関や協力者との関係を継続することに努めました。
それぞれにとって有意義な時間となり、関係機関同士、参加者同士、参加者と関係機関などのつながりが広がりました。
- ◆子育て支援者の定例会議で利用者支援事業について伝える機会を得、今後の連携を深める足掛かりとなりました。

<入江・新子安サテライト>

- ◆相談対応では、ひろばに出る機会を増やすよう努めました。
継続的に関わっている親子の対応に加えスタッフと連携し、ひろばで気になる親子ともつながりを持ち、必要に応じて情報提供を行いました。
- ◆前年度まではマザーズハローワークの個別相談として開催でしたが、今年度は「収入の壁」についてのセミナーも取り入れ、育休復帰やこれから就労を考えている人のニーズに応え、情報を伝えました。
- ◆マタニティ期から地域とのつながりを促すプログラムの一環として、今年度も「マタニティ向け保育のお話 基本のキ」を実施しました。
保育・教育コンシェルジュから「預け先に関する情報」や「地域情報」が広く提供され、参加者同士のつながりができました。
- ◆育児支援センター園とのネットワークも3年目となり、お互いの役割や地域支援に対する共有を深め、親子支援の体制がよりスムーズに機能するよう努めました。
- ◆近隣小学校の職員や児童専任と、新子安地区社協による「こどもみらい会議」などのネットワークでつながることができました。
プレイキャラバンの際には周知の協力を得ることができました。
- ◆外国にルーツのある利用者で、保育所等の制度や申請について相談がある人には、内容をわかりやすく説明するよう心がけ、保育・教育コンシェルジュとも情報を共有しながら連携して対応しました。
- ◆外国につながる親子に拠点の存在を知ってもらうきっかけとして、毎月実施している「たぶんかおしゃべり会」の開催日に、読み聞かせボランティアと一緒に、「絵本で多文化交流」を行いました。
外国籍の子どもが在籍する近隣の保育園にも声をかけ、参加者同士の交流の輪を広げました。

Ⅲ すくすくかめっ子事業

- 訪問活動：西菅田・羽沢・宮向・羽沢南・片倉地区・片倉うさぎ山・六角橋北原・三ツ沢・松本・沢渡
神北・鳥越大口七島・新子安・松見第一・松見第二・松見第三・子安入江・神之木西寺尾
- 季刊紙・「すくすくかめっ子元気号」発行：4回
かめっ子親子のたまり場訪問、全体交流会・方面別交流会・全体研修会、区民向け講演会
自然遊び、かなさんぽ、親子ふれあい体験授業、パマトコ、かなーちえインスタグラムでの周知、を掲載しました。
- 全体交流会：23 地区39名
テーマ：もうすぐ 25 周年「かめっ子の魅力とこれからを語り合う」ワールドカフェ
- 方面別交流会：4回、27 地区、52 名、地域等61名
8/29 神之木地域ケアプラザ、9/19 六角橋地域ケアプラザ、9/27 菅田地域ケアプラザ、9/30 かなーちえ
テーマ：まちぐるみ♪子育て・子育て応援「みんなで聴くを磨く」
講師：かめおか ゆみこ さん
- 全体研修会：25 地区、39 名
テーマ：こどもまんなか社会へ向けて 子どもの声を聴く「まちの第三の大人としての寄り添い方」
講師：天野 秀昭 さん
- 事業のふり返し：
 - ・かめっ子訪問(19 か所)を通して、各地域の中ですくすくかめっ子が、乳幼児親子にとっての身近な居場所、情報収集、同世代・多世代のふれあいの機会と場になっていることの意義を実感しました。
 - ・訪問した様子(写真)や、支え手さんや親の声などを「かめっ子訪問ニュース」にまとめ、親がめホームページ(かめっ子訪問ニュース)に掲載しました。かなーちえからの発信ツール(インスタグラム)にも掲載し、子育て世代にかめっ子の魅力を伝えました。
 - ・昨今の、就労世帯の増加に伴う保育園入園児増により「来所親子数が少ない」「0 組の時は、支え手としてのモチベーションが下がる」などの声を聞き取りました。区と共有し今後のかめっ子事業について話し合いを重ね、次年度の交流会・研修会(フォーラム)に課題として取り上げ、地域と検討していくこととしました。
 - ・令和 7 年度に 25 周年を迎え、長きに渡り地域の皆さんと共に育んできた当事業の検証と、社会的な価値をわかち合うフォーラムの開催を区に提案しました。
 - 実りある機会とするために、区と共に開催に向けて話し合いを重ねました。



神奈川区すくすくかめっ子《町ぐるみ子育て応援》訪問ニュース
羽沢地区・羽沢スポーツ会館：令和 6 年 7 月 3 日(第 1 水曜日)

7 月は七夕…支え手さんと親子一緒に、オリジナルの「七夕アレンジメント」を制作しました。

◎バス通りに面してかめっ子の旗。今日は開催日！と知らせています。



◎外には、遊具があります。お部屋は広いので、赤ちゃんから大きい子まで、十分に遊べます。



◎「もしかしら、赤ちゃん訪問に来てくださった方ですか〜？」と 2 年ぶりの再会があったり、「ボランティアを始めたきっかけは…」と、貴重なお話を聴く機会があったり…。

地域ならではの、交流があります。

今回は、支え手さんのお家から菊を取って来てくださり、タケノコご飯＆手作りのお漬物を、皆に振舞っていただきました。





神奈川区すくすくかめっ子《町ぐるみ子育て応援》訪問ニュース
菅田地区・西菅田団地集会所：令和 6 年 10 月 4 日(第 1 金曜日)

菅田地区には 3 か所のすくすくかめっ子があります。今回は西菅田に訪問させていただきました。

緑区に隣接している菅田地区。ひろーい UR 西菅田の集会所で開催。

第 1 金曜日 10 時～12 時



2 人の支え手さんが「今日は来てくれるかな〜」と楽しみにしながら準備しています。

泣いたり…笑ったり…歩いたり…歌ったり…たのしいひろば



情報コーナー
かなーちえの情報もありました

丁寧に拭いた清潔なおもちゃもお待ちしています

コロナでしばらく休止していたけど親子さん少ずつ増えてきて嬉しい！
支え手さんの歓迎の声でびくびくして泣いた子もだんだんとニコニコ。
ここがあったよかった…の聲が支え手さんにも伝わっていました。



IV 第 10 期 神奈川区地域づくり大学校事業

●事業目的:

- ・地域で活動する区民が「神奈川区地域づくり大学校」で、地域の様々な課題を解決していく力を養うため、先進的な取組事例を学ぶと共に、グループワークを通じて課題解決の手法や魅力づくりを学び合う場を提供していきます。
また、自治会町内会をはじめ、地域での活動につながる人材の発掘を目指します。
- ・変化する時代・社会において、人にとって、まちにとって、「つながりは生きる力」であるという確かな軸を真ん中に据え、“地域づくり”というキーワードに関心を寄せる地域人材を募り、学びと実践力を身につけます。
- ・多様な立場の人と人との地域を越えて出会い、交流し、with コロナの中、これからの時代に求められる地域の新たなつながりを生む、コミュニティづくりを目指し、一人ひとりの「こうなったらいいな」をカタチにしていきます。更に、同じ思いのプランをグループ化させ、広がりのある地域での活動につなげていきます。
- ・本事業は今期、スタートから 10 期を迎え、これまで輩出した卒業生は 220 名にのぼる。
その人財が、地域で脈々と積み重ねてきた活動やその意義について、節目である今期において、記念誌というかたちでアウトットをし、今後、地域づくりにさらにさまざまな人が参画し、すそ野が広がる契機とします。

●実施体制:

神奈川区連合町内会自治会連絡協議会、神奈川区役所、特定非営利活動法人親がめ
(協力: 社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会)

●対象者: 神奈川区内在住・在学・在勤の方、受講者25名

- ・これから地域で何かやってみたい方
- ・神奈川区で自治会町内会等の地域活動(青少年指導員、子ども会、おやじの会等)に関わっていて、新たな活動や活動の見直しを考えている方
- ・その他の地域活動に関わっていて、新たな活動や活動の見直しを考えている方

●実施期間: 第 10 期「自分らしさで生み出す 新しい地域づくり～人・コト・縁 ギュギュッとつながる～」

- ・10/27 「ここからはじまる地域づくり大学校」～知り合う・対話が弾む! すぐろくワーク体験～
- ・11/24 強くあたたかいコミュニティづくりのヒント～立ち上げ方・つくり方・まわし方～
- ・11/19 「いろいろな活動のカタチ」～先輩たちが語る♪私の活動の原動力～
- ・1/21 「アイデアを磨く!」～対話×ひらめき×この指とまれ～
- ・2/18 「終わりがはじまり!」～アクションプラン発表会～+祝 10 周年! 地域づくり大学校記念イベント
“まちカフェ”

※アクションプラン(地域で実践したい取り組みを具体化した計画)を講座の中で作成、提出をもって卒業

- ・相談会 1 月～2 月の期間に、グループに分かれて事務局と相談、対話タイムをもうけました
- ・現場へGO 11 月～2 月の期間に、見学受け入れ先地域団体・施設の一覧より、希望先に連絡を取り
見学&体験
- ・かわら版発行 周知を広げるため、講座開催と並行して、講座内容をまとめたかわら版を区ホームページに掲載

●事業成果:

- ・地域づくりや地域活動における5つの柱を、受講生が対話型で学び合い、感じ合う講座となりました。
(5つの柱:①対話力をつける②知る力をつける③地域活動に必要なスキルを学ぶ④実践の場から感じる⑤ネットワークにつながる)
- ・その成果として、25名の地域で実践したい取り組み、具体化した計画、アクションプランを、冊子の形にまとめ、関係各所に配付しました。
- ・受講生同士が、つながるツールを持ち、来年度に向け、個々のみならず受講生全体で活動を企画する等のアクションが受講生発信で起こっています。
- ・拠点の成果としては、講座の開催によって、地域子育て支援拠点を知らなかった人が足を運ぶ機会となり、周知となると共に、継続して地域活動や子育てに関する相談が持ち込まれ、拠点が地域における子育て・子育ての目的の基に、活用される契機となりました。
- ・法人として、区政推進課との年間を通じた話し合いや講座準備を通して、協働を継続して実践する経験を得、そのエッセンスやノウハウが蓄積されました。
- ・神奈川区地域づくり大学 10 周年記念紙の作成・発行を通して、“地域づくり”をテーマに対話と学びを深める積み重ねと、その歩み、意義を改めて確認することができました。
- 分野を超えた多様な人、団体、施設等とのネットワークの広がり、これからにつながる大きな力、財産になりました。

参加者のふり返しシートより地域づくり大学校をふり返って

素晴らしい ステップ 知り合える 本当にありがとうございました
理論 10期 良い 気づく 分野 受講 真剣な 非常な
感じる 皆様 異なる 実現 学び 思い 講座 楽しい
根付く 卒業生 5回 プラン 方々 発表 援 自由な
新しい 具体 つながり できる 皆さん スモール
いろいろな 下等な アクションプラン 地域 活動 聞ける
深める 大学校 つながる よい いただく 様々な 大変な
重要な 大きい 学ぶ 伺える いく 活用 大切さ 多い まんじゅう
前向きな 押す 地域づくり 繋がり 盛り上げる 色々な
大切な 関わる つなぐ 繋がり 煮詰まる 短い
落とし込む うまい

V 親と子のつどいの広場事業(しゅーくるーむ)

親子が気軽に集い、交流できる居場所を、身近な地域で利用できるよう取り組む。

テーマ「みんなで育ててみんなで育つ」

1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

●新規登録者数：65組 / 年間利用者数：3958人

- ・常連の利用者を中心として、初来所や1組だけで来ている親子にもお互いに声をかける雰囲気ができています。初来所の人から「こんなアットホームな居場所が近くにあったなんて!」という声をいただくこともありました。利用者も一緒に広場のことを考えていけるような取り組みを続けることで、利用者自身が「心地よい広場づくり」を意識してくれるようになっていけると感じます。
- ・利用者一人ひとりに合った関わり方をスタッフが感じ取り、ミーティングで共有・工夫することで、全体として居心地の良い雰囲気づくりに努めました。
- ・ランチタイムを復活させ、午前を通しての利用を再開しました。緩和できる場所を取り入れつつ、コロナ以降の衛生観念を考慮し、利用者の声を聞きながら安心・安全な広場を目指しました。
- ・保育園・幼稚園の入園前トーク等、テーマを絞ったトークタイムを実施し、利用者同士の情報交換や気持ちの共有をする時間を設けました。
- ・年度途中からひろばスペースが狭くなったことを受けて、利用者と一緒に新しいひろばづくりに取り組んでいます。

2) 子育てに関する相談、援助の実施

- ・日頃からの関わりを通して関係性を築き、相談しやすい雰囲気づくりを行いました。
- ・利用者の話にしっかりと耳を傾け、相談内容によっては区で行われている相談日や各行政サービス、保育所等の情報を伝え、利用者自身が選択できるような援助を行いました。
- ・利用者同士で相談・解決できるよう、スタッフがパイプ役となってつなげながら、情報・資料の提供の支援を行いました。
- ・広場で起きた様々な事例に関して、スタッフ間で共有・意見交換をすることで、一人ひとりが状況に対応できるようなスキルを身につけることにつながりました。また、積極的に研修に参加しスキルアップに努めました。
- ・4か月に1回、横浜子育てパートナーが来所しました。(相談や情報発信)
- ・赤ちゃん学級等で区の保健師と連携し、気になる親子に対する対応等アドバイスをもらったり、情報共有をしました。

3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・地域や関連施設、地域子育て支援拠点と連携し、情報収集に努め、日々の告知タイムで広く呼び掛けたり、利用者が手に取りやすいように掲示したり、各々のニーズに応じてスタッフから手渡す等、情報提供をしました。
- ・地域の子育て支援ネットワークと連携を取り、情報発信を図りました。
- ・近隣の福祉法人施設・地域コーディネーターと連携を取り、共催イベントの実施や情報提供等、交流を図りながら情報発信に協力してもらいました。

4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- *かなづち子育て応援タイム 2回(幼稚園トークイベント、おいもほりイベント)
- *保育・教育コンシェルジュ来所による保育のお話 2回
- *お外で!ハロウィンイベント(近隣の老人ホーム・地域ケアプラザとの共催イベント)
- *ハロウィンウィーク・クリスマスウィークとして、自由参加の工作イベント *足形アート 3回
- *ストレッチタイム 月2回(4月～11月)
- *おはなし会(読み聞かせボランティアグループ)月1回 *お誕生会
- *子育て支援員による手遊びタイム *先輩ママをむかえての入園前トークタイム
- *土曜日「おでかけ♪しゅーくるーむ」地域ケアプラザ、うさぎ山プレイパークへのアウトリーチ月2回

5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- *福祉保健センター地区担当保健師 *保育・教育コンシェルジュ
- *地区センター・地域ケアプラザ・地域子育て支援拠点との共催企画の実施
- *スタッフが地域の赤ちゃん学級(月1回)・外遊び応援隊(月1回)・子育て支援拠点のスタッフを兼任
- *地域の子育て支援ネットワークへの参加 *かめっ子訪問・告知 *子育て支援員との交流企画
- *こんにちは赤ちゃん訪問員へのチラシ依頼 *地域における子ども関連の連絡会への参加
- *地域懇談会への参加 *地域支え愛連絡会への参加 *近隣保育園との連携 *地域企業との連携
- 10周年を機につないだ地域との縁をさらに深め、地域活動にも積極的に参加しました。

VI 親と子のつどいの広場事業(ほしのひろば)

誰でも、どんな時でも気軽に立ち寄り、のんびり過ごし、他の親子と交流できるよう取り組む。

テーマ「ほっとできる居場所 ☆ほしのひろば」

1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

●新規登録者数: 113組 / 年間利用者数: 4053人

- ・ほっとできる温かな居場所の提供の継続に加え、「育ち合えるひろば」をキーワードに、利用者、地域、ひろばが相互に関わり合い育ち合える関係を目指しました。10周年の周年行事を利用者と共に計画し実行する中で、ひろばを核として、子育て親子が地域の中の様々な施設や人々と関わり合いを持つことが出来ました。
- ・土日曜日の不定期開所「ファミリーDAY」を開始しました。育児参画促進講座の提供と共に、家族でひろばを利用できる時間となりました。講座の講師には、ひろばの元利用者や地域の方の力を借りたことで、利用者にとってより親しみやすく魅力ある時間となり、また就園した親子と長くつながっていける機会となりました。
- ・「居場所」としてのひろばを大切にしつつ、「来所のきっかけ」や「友人を誘う機会になる」との利用者の声から、プログラムやイベントも大切に考えました。利用者からの発案で出来た「みんなの声 DAY」の中で、利用者が主体となってプログラムを計画し参加する姿が見られました。
- ・一時預かりは昨年度から大きく利用数が減りましたが、広場での預かりの様子を見て、「安心して利用してみようと思うきっかけとなった」との声があり、利用する親子のほとんどが、初めての預け先として広場の一時預かりを選んでいきます。みんなで見守り合う、ひろば預かりの良さを伝えていきます。

2) 子育てに関する相談、援助の実施

- ・普段の何気ない会話の中から聞こえてくる利用者の声に耳を傾け、限られたスペースでも話しやすい空間づくりを心掛けました。その中で、利用者同士での相談や解決の場も重要であると考え、双方がつながり合えるよう援助を行いました。相談の内容によっては専門相談を案内し、より利用者のニーズに合った対応を行いました。
- ・横浜子育てパートナー、YMCA東かながわ保育園の保育士、地域担当の保健師に定期的に訪問してもらい、いつもの広場で気軽に相談できる機会を設けています。専門家に話を聞いてもらうことで、より利用者の安心につながることができました。
- ・ひろばで受けた様々な相談や問題は、スタッフ会議で共有し意見交換を行なうことで、どのスタッフも状況を的確に判断して対応できるようスキルアップに努めました。

3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・初めての利用者にとって、地域子育て支援拠点や子育て支援日で出会う親子や支援者など、当事者からの声掛けが大きな力となって来所につながっています。
- ・支援日や赤ちゃん学級にスタッフが出向き、顔の見える関係づくりに努めながら情報提供をしました。
- ・公式 LINE 配信に加え、「Instagram」を定期的に配信しました。まだひろばを利用していない親子にも、写真や文章で広場の様子や情報を細やかに届けることができ利用につながりました。一方で、近隣集合住宅の掲示板へのニュース掲示も継続しています。どんな世代にも届く情報提供を継続していきます。

4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- ・YMCA東かながわ保育園保育士来所×12回 子どものごはん試食&お話し会、トイレトレーニング、園長先生のお楽しみタイム他
- ・外遊び×月2回 地域にある星野町公園とポートサイド公園にスタッフが出向き、親子が外に出て遊ぶきっかけづくりをしています。外遊びを通して、子どもの育ちを伝え見守り続けていきます。
- ・防災についての講習・避難訓練×1回 地域消防署に協力をいただき、座談会形式での講習を実施。活発な意見交換の中で、自分事として防災を考える機会となりました。

5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- ・子育てに悩みを抱えた利用者がより多くの居場所に出向き、またそこで必要な情報を得ることができるよう、かなーちえスタッフとも連携を取り合い、利用者にとってより良い環境となるよう努めました。
- ・「中学生の職場体験」で3名受け入れ、日頃出会うことの少ない世代同士の交流のきっかけとなりました。
- ・ゆうゆうバトンの協力を得て「幼稚園のおはなし会」を実施し、ひろば利用者の中から、ボランティア活動の参加につながりました。
- ・コットンハーバー地区すくすく子がめ隊合同開催「ミニミニ運動会」「ミニクリスマス会」、協力「ハロウィンパレード」「10周年イベント」子がめ隊の開催日告知など利用者への周知をひろば内、及びSNSなどで担い協力しました。

- ・かなーちえ・区福祉保健センター地区担当保健師・民生委員児童委員・主任児童委員・地域ケアプラザ・区民活動支援センター・すくすく子がめ隊・近隣保育園園長他と共に「地域連携ミーティング」を年3回実施しました。
- ・きらふわ遊びの会「きらきらプレイパーク@星野町公園」に年6回参加しました。「おでかけひろば」としてスタッフが出向くことで、開催の周知に努めると共に顔の見える関係を築き、オムツ替えや授乳の場を提供しています。ひろば利用者が参加しやすい場となりました。
- ・周年行事を、CCT（地域コミュニティ）主催のフリーマーケット内で、CCT・コットンハーバーすくすく子がめ隊の協力を得て開催しました。